

○湖南省総合計画審議会 委員名簿（敬称略）

氏 名	区 分
明智 榮一	2号委員
井上 明保	2号委員
宇佐見 葵	3号委員
大久保 亨	2号委員
奥野 修司	2号委員
木邑 賢治	2号委員
熊谷 直樹	1号委員
小林 一樹	3号委員
小森 茂樹	2号委員
坂尾 昭夫	2号委員
清水 明彦	2号委員
白石 克孝	1号委員
白鳥 宏枝	2号委員
高橋 久夫	2号委員
谷 侑	2号委員
中西 功	3号委員
日野 梢	3号委員
古川 美智子	2号委員
木田 由希子	2号委員
松山 博之	2号委員
森田 幹雄	2号委員
山中 清子	2号委員
山中 邦夫	2号委員

1号委員：学識経験を有する者

2号委員：市内の公共的団体の代表者

3号委員：その他市長が適当と認める者

湖 創 第 2 0 8 号
令和 6 年 (2024 年) 7 月 3 1 日

湖南省総合計画審議会
会長 白石 克孝 様

湖南省長 生 田 邦 夫



第三次湖南省総合計画の策定について (諮問)

このことについて、湖南省総合計画策定条例第 3 条の規定に基づき、下記のとおり貴審議会に諮問します。

記

第三次湖南省総合計画の策定について

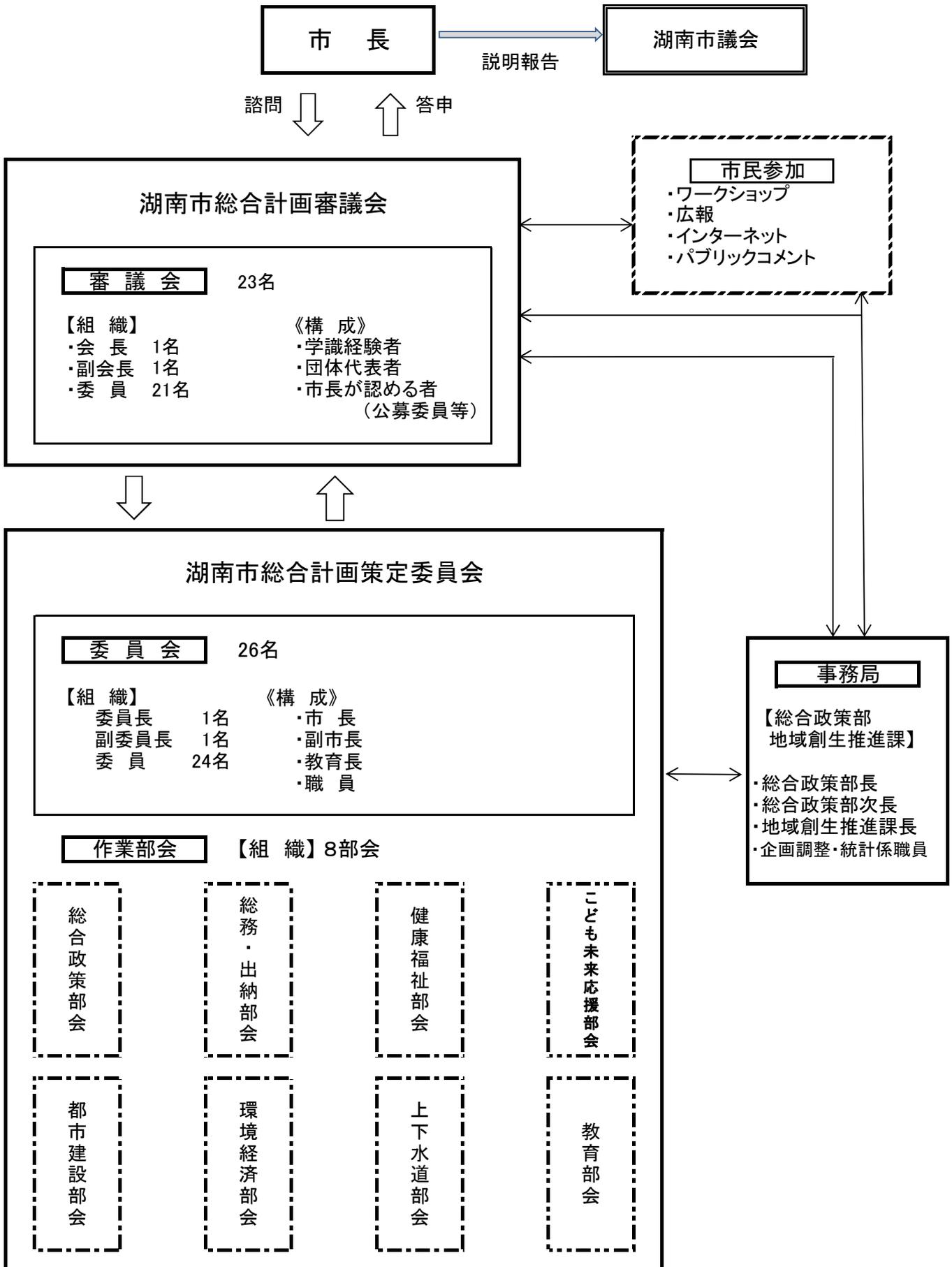
【諮問理由】

湖南省では、平成 28 年度から 10 年間を計画期間とする、第二次湖南省総合計画基本構想に掲げた将来像である「ずっとここで暮らしたい！みんなで創ろう きらめき湖南」の実現に向けて、平成 28 年度から 10 年間を計画とする基本計画に基づき、六つの目標を掲げて施策と指標実現のために取り組んできました。

こうした中、総合計画基本計画および総合戦略が令和 7 年度を以って計画期間が満了となることから、これまでの取組状況や課題等を検証し、市民ニーズや社会情勢の変化を踏まえながら、引き続き将来像の実現に向けたまちづくりを推進していく必要があります。

このことから、令和 8 年度からの 10 年間に取り組むべき方向性を示す総合計画の策定に関して諮問し、調査、審議していただくものです。

第三次湖南省総合計画策定組織体系図



○第三次湖南省総合計画・第三期湖南省総合戦略策定スケジュール（案）

20240731

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)				令和7年度 (2025年度)				
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	
アンケート調査		企画・設計・準備			調査	集計	まとめ			
ワークショップ				企画・設計・準備	ワークショップ実施(4回)		まとめ			
パブリックコメント						企画・設計・準備	実施	まとめ		
審議会		■ 公募	■ 第1回		■ 第2回		■ 第3回	■ 第4回	■ 答申	
市議会	◇ 委員会			◇		◇		◇		◇ 上程
計画策定			● 策定委員会		◇ ● 作業部会		○ ◇ 実施調整会			●
		→ 現況調査	→ 人口ビジョン・現行総合計画・総合戦略の進捗状況調査							
					→ 骨子・体系の検討					
						→ 基本構想案の検討				
						→ 前期基本計画案の検討				
							→ 総合戦略案の検討			
								→ 最終調整とりまとめ		
										→ 計画書・概要版の作成・印刷
		※各所管課等の内部調整については、必要に応じて湖南省総合計画策定委員会における作業部会の開催を予定しています。								

湖南省の現況について

現在の時代の潮流や湖南省の位置・地勢と現況特性、現行計画における施策進捗と目標指標達成状況、市民意識調査の方向性について整理しました。

外部環境分析

都市を取り巻く全国的な動向

暮らしを取り巻く環境

- ・本格的な人口減少・少子高齢化、長寿社会の到来
- ・SDGs（持続可能な開発目標）の推進
- ・自然災害の激甚化・頻発化、防災・減災対策の推進
- ・感染症対策（新しい生活様式）の定着
- ・環境配慮への投資の拡大、脱炭素の地域づくり推進
- ・GX（グリーントランスフォーメーション）の推進
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

ひとを取り巻く環境

- ・多様な価値観の尊重（ジェンダーレス、ダイバーシティー）
- ・Well-Beingの推進
- ・グローバル化、多文化共生

地方自治、地域自治を取り巻く環境

- ・地方創生の視点でのまちづくりの高まり
- ・市民と行政の協働によるまちづくり
- ・民間資本・ノウハウの導入
- ・5G社会におけるICT（情報通信技術）等の技術革新の成果の有効活用

国の政策動向

デジタル田園都市国家構想（R4.6）

地域間格差の是正と社会潮流の変化に対応するため、デジタルを活用しながら地域課題の解決を図る方針を示す

異次元の少子化対策（R5.1）

急激に進む少子高齢化に対し、今後3年間の経済的支援・子育て支援・働き方改革の集中的な取組方針を示す

脱炭素成長型経済構造移行推進戦略（R5.7）

地球温暖化やウクライナ侵攻による影響を受け、我が国の脱炭素、エネルギー供給、経済成長に向けた方針を示す

こども基本法（R5.4）

少子化、児童虐待、貧困問題等の深刻化を鑑み、子どもに関わる施策の実施と人権保護のための法律を制定

育成就労制度（R6.2）

我が国の労働力不足解消に向け、外国人労働者の権利保護、地元定着、キャリアアップを目的とした制度を創設

公募設置管理制度（Park-PFI）（H29.5）

公園ストックの老朽化対策と有効活用が求められ、民間と連携して都市公園の質や魅力向上を図る制度を創設

滋賀県の政策動向

滋賀県基本構想（H31.3）

基本理念 「変わる滋賀 続く幸せ（Evolving SHIGA）」

政策の方向性 <みんなで目指す2030年の姿>

人 自分らしい未来を描ける生き方

経済 未来を拓く 新たな価値を生み出す産業

社会 未来を支える 多様な社会基盤

環境 未来につなげる 豊かな自然の恵み

滋賀県基本構想実施計画（R5.3）

施策の展開 13の政策の柱による「健康しが」の実現

・目指す姿 「感じている幸せの度合い」「滋賀に誇りを持っている人の割合」「滋賀に住みたいと思う人の割合」

・全庁をあげて取り組む「CO₂ネットゼロ社会づくり」

・あらゆる施策で可能性を検討する「DX推進」

滋賀県総合戦略（R2.3）

基本政策

・みんなで応援する結婚・出産・子育てと人生100年時代の健康滋賀の実現

・時代に向かう産業の活性化と多様で魅力ある職場の創出

・様々な人々が集い、琵琶湖と共生する魅力的な滋賀づくりと次代への継承

第三次湖南省総合計画における社会潮流の整理

湖南省における社会潮流の整理

暮らしを取り巻く環境（社会、環境、産業、デジタル技術）

- 人口減少、少子高齢化に対応したまちづくりが求められています
- 安心・安全に住み続けられる地域づくりが求められています
- 限りある地球の資源を大切に暮らして社会経済活動が求められています
- 地域課題の解決に向けたデジタル技術の活用が求められています

ひとを取り巻く環境（人権、幸福度、グローバル化）

- 多様な価値観を認め合いながら人権を尊重するまちづくりが基本です
- 価値観やライフスタイルの多様化とともに地域の幸福度を高める取組が求められています

自治を取り巻く環境（協働のまちづくり、地方創生、持続可能な社会）

- 新たな協働の形を取り入れた住み続けられる地域づくりが求められています
- 世界的視野と地域特性の最大活用による生き残りが求められています
- 経営的視点による持続可能な行財政運営が求められています

内部環境分析

< 湖南省の位置・地勢と現況特性 >

湖南省の位置・地勢

- ・大阪、名古屋から100km圏内にあり、古くから交通の要衝として様々な産業と文化、豊かな居住環境が発展
- ・野洲川付近一帯に平野が開け、水と緑に囲まれた自然環境に恵まれた地域

人口の動向

- ・総人口は近年微減傾向、世帯数は経年的に増加
- ・子どもと現役世代は減少、高齢者は増加
- ・出生率および合計特殊出生率は低下傾向
- ・外国人人口は近年増加傾向
- ・通勤・通学は流出流入で甲賀市、栗東市、草津市が上位

産業、交通、都市環境について

- ・年間商品販売額（商業の売上額）は近年増加傾向、製造品出荷額等（工業の生産額）はR2年に減少
- ・観光入込客は周辺市町と比較して少ない
- ・市内のJR3駅全てでR2年から一日平均乗車人数が減少しており、R1年の水準までは回復していない
- ・一戸建て住宅の比率や都市公園面積は県平均以上

第二次湖南省総合計画後期計画（現行計画）の実施状況について

総合計画（第1章～第6章）の施策進捗・目標指標達成状況

	施策方針（抜粋）	概要
第1章 みんなでともに進めるしくみをつくる	市民主体のまちづくりの推進	・計画通りに施策・事業が実施されています。 ・引き続き、市民活動に対する支援強化によるまちづくり活動団体の支援、市政に対する意見・提案機会の拡充による市民参画の促進等を推進します。
第2章 うるおいのあるまちをつくる	環境の保全	・計画通りに施策・事業が実施されています。 ・引き続き、里山保全活動による森林の保全、地域の河川愛護活動等の環境美化活動への支援による環境の美化・不法投棄の防止等を推進します。
第3章 活気のあるまちをつくる	市街地・住環境の整備	・計画通りに施策・事業が実施されています。 ・引き続き、立地特性を生かした民間活力誘導による都市計画の推進と市街地の整備、地域連携による住環境の整備・地籍調査等を推進します。
第4章 ほっとする暮らしをつくる	健康づくりの推進	・計画通りに施策・事業が実施されています。 ・引き続き、市民の自主的な健康づくりの推進による健全な生活習慣の形成や多様な情報媒体による健康維持・増進および各種感染症の流行状況等の最新かつ正しい情報の発信による健康に関する正しい情報提供等を推進します。
第5章 いきいきとした暮らしをつくる	人権教育の推進	・計画通りに施策・事業が実施されています。 ・引き続き、市民が主体的に学べる学習環境、交流の場づくりによる人権教育・啓発の推進や職場内研修や外部派遣研修等の実施による職員研修等を推進します。
第6章 明日を拓くしくみをつくる	効率的な行財政運営の推進	・計画通りに施策・事業が実施されています。 ・引き続き、総合型マネジメントシステムによる事務事業の改善による行政改革の推進や研修制度の充実による業務能力の向上による地方分権化に対応した人材の育成等を推進します。

総合戦略（第7章）に位置付けられる主な目標指標達成状況

- ・令和5年度時点の実績値は令和7年度の最終目標値を下回っています。
- ・目標指標については、各施策における事業効果に照らし、目標設定も含め事業の実施方法の見直し等を進める必要があります。

3つのプラン	目標指標	基準値（R1）	実績値（R5）	目標値（R7）
働く場の創出	新規創業件数	11件	10件	12件
	甲賀ハローワークでの新規求人数	14,400人	11,334人	17,200人
ひとへの投資	観光入込客数（暦年）	631,800人	610,157人	825,800人
	社会動態（5年間累計）	-712人	-217人	0人
	出生数（5年間累計）	2,048人	1,799人	2,232人
まちづくり	地域まちづくり協議会が主体となる協働事業の参加者数	28,493人	38,199人	40,000人
	健康寿命	男性78.39歳 女性80.91歳	男性78.87歳 女性81.07歳	男性80.13歳 女性81.61歳

第1章～第6章のうち、重点的に取り組むプロジェクト

市民のニーズ把握 市民意識調査の方向性

外部環境・内部環境分析市民ニーズを踏まえた把握の方向性

- ・子どもを含む若い世代から高齢者まで全世代を対象とする調査
- ・外国人市民に対しても地域社会の一員として意向を聴取
- ・子育て世帯および若い女性の移住・定住に関するニーズを把握
- ・回収率向上と利便性確保に向け、Webでの回答システムを準備

市民意向調査の目的

- ・総合計画および総合戦略立案の基礎となる市民意向の把握
- ・施策の達成状況の観測
- ・市政に関する市民の理解促進、まちづくりの担い手育成の機会

市民意向調査設計のポイント

- ・多様な市民の意向を聴取する
- ・一般市民（18歳以上、外国人を含む）、高校生、中学生
- ・効果的・効率的な調査
- ・事前周知と結果の広報、前回調査との比較、既往調査との連携

主に把握する内容

- 一般市民 湖南省の魅力、住みやすさ、定住意向、行政への要望、まちづくり意識等
- 高校生 湖南省の魅力、将来イメージ、定住意向、まちづくりへの意識等
- 中学生

分析内容を市民意識調査に反映

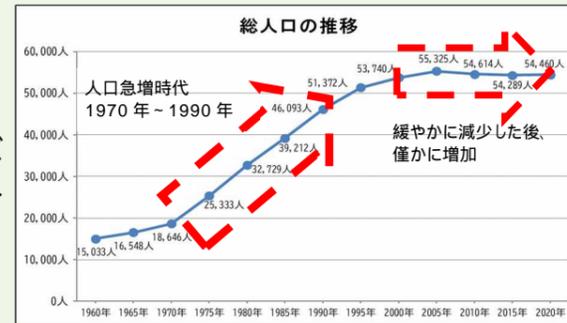
内部環境分析（人口動向）

1. 人口に関する各種統計データの分析

（1）総人口・世帯数

➢ 総人口は近年緩やかな減少後に微増、世帯数は増加傾向

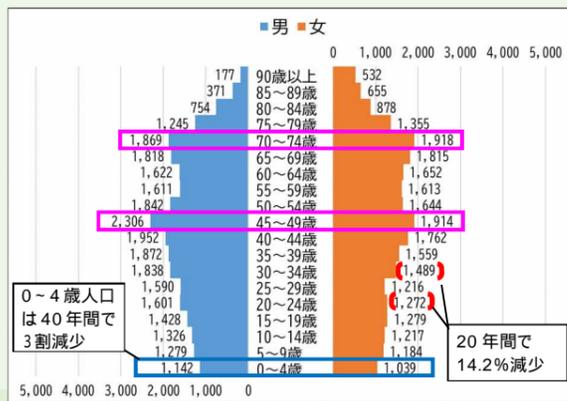
- ・令和2年 総人口：54,460人、世帯数：22,498世帯
- ・総人口は、1970年代の高度経済成長期から1990年代のバブル経済期にかけて急増し、平成7年（1995年）から総人口の伸びが鈍くなり、その後は緩やかに減少している。
- ・世帯数は、一貫して増加傾向となっており、一世帯あたりの世帯人員は減少傾向が継続している。



（2）人口構造の変化

➢ 年少人口と生産年齢人口が減少し、少子高齢化が進行

- ・年少人口：7,187人（13.2%）
- ・生産年齢人口：33,062人（60.7%）
- ・老年人口：13,387人（24.6%）
- ・人口ピラミッドは「五角系」「ひょうたん型」「つぼ型」に変化し、少子高齢化が進行している。
- ・0～4歳人口は40年間で3割減少しており、近年は急激に減少している。



（3）自然動態、社会動態

➢ 社会動態は転出超過の傾向、自然動態は出生数の減少と死亡数の増加が続いている

- ・転出が転入を上回る社会減の状態が続いていたが、平成28年（2016年）以降は転入が転出を上回る年もみられる。
- ・波があるものの、出生数の減少傾向が続いているのに対して、高齢化により死亡数は増加傾向にある。



（4）出生率、合計特殊出生率

➢ 出生数の減少に伴い、出生率と合計特殊出生率は経年的に低下傾向

- ・出生率は令和3年、令和4年に大幅に落ち込み、周辺都市や滋賀県全体よりも低い値となっている。
- ・合計特殊出生率は平成27年（2015年）の1.65から低下傾向が続く。特に、25～34歳の出生率が低下している。



（5）外国人人口

➢ 国籍別では、ブラジル国籍とベトナム国籍が増加傾向

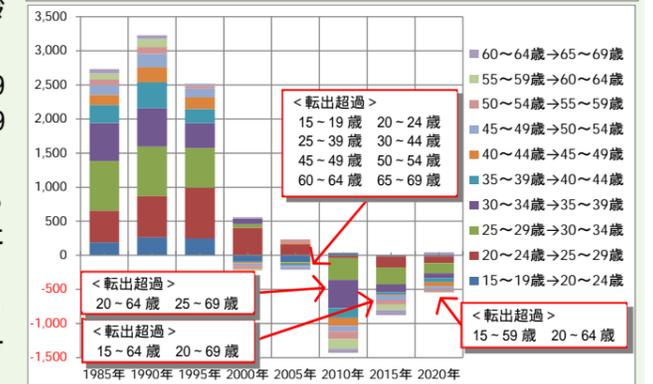
- ・令和5年の国籍別人口では、ブラジル国籍が最も多く1,511人、ベトナム国籍が758人、ペルー国籍が356人と3か国で外国人全体の約7割を占める。
- ・過去10年間の推移をみると、ブラジル国籍とベトナム国籍は平成29年（2017年）以降に増加している。
- ・他の国籍の外国人は、大きな変化がなく、概ね横ばい傾向で推移している。



（6）年齢階層別にみた人口移動の状況

➢ 若者人口の流入減少、子育て世帯は転出傾向

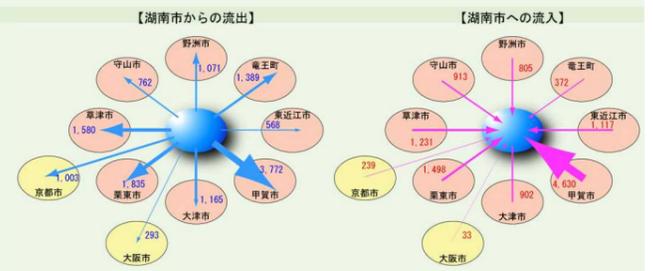
- ・5歳階級の人口が5年間でどのくらい移動したのかを見た場合に、平成7年までは、すべての年齢階級で転入者数が転出者数を上回っているが、平成7年（1995年）～平成12年（2000年）以降は、転出超過となる年齢階級が始め、平成17年（2005年）以降は、多くの年齢階級で転出超過となっている。
- ・平成27年（2015年）～令和2年（2020年）は、20～39歳 25～44歳の年齢階級での転出超過が大きく、60～79歳 65～84歳が転入超過または均衡状態となっている。
- ・男女ともに、平成7年までは、子どもと20歳後半から30歳代前半のファミリー世代が流入超過となっていたことで急激な人口増加の要因となっていた
- ・しかし、平成7年から平成12年にかけては、ファミリー世代の移動が均衡し、平成12年から令和2年にかけては、大きく流出超過となっている



（7）通勤・通学流動、転出・転入

➢ 隣接する甲賀市への人口移動が最も多い

- ・湖南市への流入人口、湖南市からの流出人口ともに、上位3市は、甲賀市、栗東市、草津市となっている。
- ・転出・転入においても甲賀市への移動が最も多く、京都府や大阪府への移動も一定数みられる。



2. 統計データの分析からみえてきた湖南市の人口動向

20～30歳の若者人口の流入数減少と子育て世帯の流出が少子高齢化の大きな要因

年齢階層別の人口移動状況をみると、男女ともに20～30歳の若者人口の流入数減少、子育て世帯（25～40歳の親世代と0～4歳の子ども世代）の流出超過が続いており、湖南市の少子高齢化の大きな要因となっている。また、外国人人口は近年増加し続けており、現在は総人口の約7%を占めている。

出生数の経年的な減少に伴い、合計特殊出生率の低下が続く

母数となる出産適齢期の女性人口（15～49歳）は緩やかな減少傾向である一方、出生数は過去10年間で約2割と大きく減少しており、合計特殊出生率の低下が続いている。年齢階層別の出生数をみると、平成27年から令和3年（2021年）にかけて25～34歳の女性の出生数が特に減少している。

通勤・通学流動、転出・転入はともに隣接する甲賀市と栗東市が上位

通勤・通学流動では甲賀市・栗東市・草津市が上位を占めている。転出・転入にあたっては、職住近接の観点から近隣都市間での移動が多くみられる。

湖南省総合計画策定に関する市民意向調査について

(1) 市民意向調査の目的

I. 《総合計画および総合戦略立案の基礎となる市民意向の把握》

- ・ 今後 10 年間の湖南省におけるまちづくりの最上位計画である第三次湖南省総合計画の基本構想において、市民が共感できる「目指すべき将来像」を立案するための市民意向を把握する。
- ・ 実施すべき施策の選択、優先順位の決定などに市民の意向を反映させるため、実施を望む施策や重視すべき施策等の意向把握を行う。
- ・ 「第三次湖南省総合計画」は「デジタル田園都市構想総合戦略」を包含していることを踏まえ、デジタルの力を活用した戦略的な取組の方向性を検討するための基礎資料とする。
- ・ 「湖南省版小規模多機能自治基本構想」の趣旨を踏まえ、市内 4 つの中学校区（生活圏域）や「地域まちづくり協議会」の活動に配慮。
- ・ これまでの調査結果からの変化を社会情勢等に照らして分析・評価し、課題を把握する。
- ・ 第三次湖南省総合計画の K G I として活用する。
- ・ 回答率を上げるため、これまでの調査結果を踏まえた評価及び K G I への活用可能性が低い設問は削除し、スリム化を図る。
- ・ 他部局が各々の計画策定等において実施しているアンケート調査結果の活用や、他部局から今回の機会に特に調査したい項目があれば追加する等の調整を行う。

<把握する内容のイメージ（*は新たな視点）>

- ① 湖南省の魅力（大切にすべき特性・誇りや愛着）
- ② *現在の幸福度
- ③ 住みやすさの評価（住みごこち・生活の満足度・市民生活の現状）
- ④ 今後の定住意向（前回アンケートでは、中高生のみ）
- ⑤ *市のデジタル化の推進状況
- ⑥ 将来イメージ（今後の湖南省のまちづくりについて（将来像））
- ⑦ 市民の行政に対する要望
 - ➡ *10年後を想定したまちづくりへのニーズ
(人口減少社会におけるまちづくり/湖南省で住み続けるために必要なこと など)
 - ➡ *デジタル田園都市国家構想の4本柱に関する要望
 - ➡ *優先してデジタル化を進めるべき施策 など

II. 《施策の達成状況の観測》

- ・市内の各担当部局による施策進捗管理情報を活用した施策上の達成状況評価に加え、市民目線による施策の進捗度、達成度を測るため、市民の満足度・重要度を把握する調査を組み込む。
- ・これまでの調査結果からの変化を社会情勢等に照らして分析・評価し、課題を把握する。
- ・今後の進捗管理の目標（指標）として活用する。

<把握する内容のイメージ>

- ⑧ 施策の達成状況（これまでの総合計画・総合戦略）に対する評価の実態（満足度・重要度／5段階評価）

III. 《市政に関する市民の理解促進、まちづくりの担い手育成の機会》

- ・市民との貴重なコミュニケーションの機会として捉え、設問の回答において適切な選択肢を用意することなどを通じて市の施策など取組の周知、理解促進を図る。
- ・子どもを含む若い世代に対し、アンケート調査に協力することが、市政への参画の機会であり、目指すべき将来像の立案や政策決定に影響を及ぼす重要な事業であることを伝え、調査への協力や参画の意欲の醸成を図る。
- ・二次元バーコード（QRコード）を用いて、市HPへ誘導するなど、WEBサイトを用いて有効回答数の向上を図る。

<把握する内容のイメージ（*は新たな視点）>

- ⑨ 市民のまちづくりに対する意識
- ⑩ *地域まちづくり協議会の認知・関わり等
- ⑪ *市政情報の入手方法

(2) 市民意向調査設計のポイント

I. 多様な市民の意向を聴取

○対象を幅広く、偏りなく

⇒こども家庭庁の発足、「こどもまんなかアクション」の趣旨を踏まえ、こどもを含む若い世代から高齢者まで全世代を対象とする調査を実施。

また、アンケート調査とは別に、こなんSDGsカレッジの機会の利用を検討。

<機会利用の案>

- ・現在もグローカリストとして活躍中の学生等（2～5名程度）に個別にヒアリングを実施（主なメンバーは海外留学や県外におられるため、時期やヒアリング方法（WEB会議等）は要調整）
- ・現在のカレッジ生及び以前参加されたカレッジ生を対象としたWEBアンケートを実施など

⇒外国人市民が多数暮らし、地域社会の一員として共生、活躍する湖南省の特性を踏まえ、外国人市民の意向を聴取

（アンケートは原則日本語で作成（「やさしい日本語」への配慮・ふりがな等の工夫）／外国語（「ポルトガル語」「ベトナム語」）に対応したWEBサイトを作成／「スペイン語」は対応不可とのこと）。

※ 湖南省国際協会へ「ポルトガル語」「ベトナム語」への翻訳や、外国語の表現等の確認について協力の依頼をします。

<湖南省外国人国籍別人員数 上位2カ国（2024年3月31日現在）>

国籍	公用語	人員数	備考
ブラジル	ポルトガル語	1,492人	外国人籍全体（3,814人）の 62.3%
ベトナム	ベトナム語	885人	
合計（上位2カ国）		2,377人	

<対象者のイメージ>

- ① 一般市民（18歳以上／外国人を含む／男女、地域、年齢の割合で抽出）
- ② 高校生（石部高校、甲西高校に通う二年生全員（市外在住含む）／こなんSDGsカレッジ参加者）
- ③ 中学生（石部中、甲西中、甲西北中、日枝中の二年生・三年生全員）
- ④ 大学生（こなんSDGsカレッジ参加者）

○回答者の負担を小さく、答えやすく

⇒設問数をいたずらに多くしない、分かりやすい文章表現とするなど、回答のストレスを極力小さくする。

一般市民対象の調査票のボリュームはA4判8～12ページ程度。中高生のアンケートは4ページ程度。

記述式の設問は避け、選択式を基本とする。専門用語の使用は避け平易な言葉づかい、「やさしい日本語」を用いる。

特に小中学生向けのアンケートは簡便な内容とするとともに、ふりがなを付けるなど配慮する。

⇒WEBによる回答システムを準備（外国語に対応したWEBサイトを作成（前述のとおり））するなど、回答者の利便性を確保する。

⇒その他、回収率を上げる工夫として、回答に要する時間の目安を記載する。

※ 小学生には、ふるさとをテーマに大切な場所、思い出、未来の湖南市の姿を絵にさせていただくなど、これまでの10年間と10年後の希望を描いてもらうような形での参画方法を検討します。

II. 効果的・効率的な調査

○事前や調査中の周知・広報により、市民の関心を高め、回収率を向上

⇒公式LINEなどの各種公式SNSや市HPや市広報、組回覧、地域まちづくり協議会などの自治・共助組織などを通じてアンケートの実施を周知・広報することにより、市民の関心を高め、回収率を確保する。

⇒学校については、担任の先生から期日を定めて案内いただく等により取り組んでいただくことで回収率を確保する。

※ 母集団の人数 54,069人（令和6年（2024年）3月31日現在の市人口）の調査にあたって、要求精度5%で信頼率95%の場合（係数1.96）必要なサンプル数は382人です。

4000通発送した場合、約1割の回収率で必要なサンプル数を確保できます。前回調査の回収率は39.0%、令和6年（2024年）1月に行った「公園に関するアンケート調査」では、回収率36.4%であり、督促状の送付や特別なインセンティブの設定が無くても、十分なサンプルが確保できると考えています。

○前回調査からの経年変化の把握

⇒前回調査時の主要な項目を踏襲して調査票を設計。前回からの市民の意向や施策の満足度などの変化を把握する。

⇒第三次湖南市総合計画のKGIや進捗管理の指標として利用できるよう配慮する。

○既往の調査、別途実施の部門別調査との連携

⇒庁内各部署において実施済、実施予定の調査と重複が無いように調整する。

【参考】令和5年度に実施したアンケート調査の例

- 1) 子ども・子育て支援事業計画にかかるニーズ調査
- 2) 全国学力・学習状況調査結果（湖南省・県・全国の結果）
- 3) 介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査
- 4) 障がい者福祉に関するアンケート調査
- 5) 健康づくりに関するアンケート調査

○こどもの考えを取り入れる

⇒こなんSDGsカレッジの機会を利用して、湖南省の将来について考え、具体的な施策につながるアイデア等についてご意見をいただくことを検討。

○結果の広報

⇒アンケート調査の結果を、市の広報等を用いて公表することで、市政への関心や参加意識を高める。

(3) 市民意向調査の検討

	①一般市民アンケート		
		ファミリー世代アンケート	若手の女性アンケート
対象	18歳以上 男女、地域、年齢の割合で抽出	20歳代後半から30歳代前半のファミリー世代 ※25-29歳、30-34歳を選択肢に加える	20歳代および30歳代の女性 ※20-24歳、35-39歳を選択肢に加える
配布数・対象者数	配布数:4,000票+α(WEB)		
ボリューム	A4判・8頁		
把握する内容	① 湖南市の魅力 ② *現在の幸福度 ③ 住みやすさ ④ 定住意向(一般では新規) ⑤ *デジタル化の推進状況 ⑥ 将来イメージ ⑦ 行政に対する要望(*デジタルの視点を追加) ⑧ 施策の達成状況(満足度・重要度) ⑨ 市民のまちづくりに対する意識 ⑩ *地域まちづくり協議会の認知・関わり等 ⑪ *市政情報の入手方法		
配布・回収	配布:郵送 公式SNS登録者にWEB回答を依頼 回収:郵送またはWEB回答		
外国語対応	WEB回答に誘導 ポルトガル語、ベトナム語に対応		
事前周知	紙媒体:広報こなん、区長(行政区回覧)、まちづくり協議会、学校配布物 デジタル媒体:各種公式SNS		

***は新たな視点**

本計画が「デジタル田園都市構想総合戦略」を包含することに配慮し、デジタルの力を活用した戦略的な取組の方向性を検討するための基礎資料とするために追加。

②*現在の幸福度については、地域幸福度(Well-Being)指標として活用することを想定(第三次湖南市総合計画のKGIとして活用する)。

参考:デジタル庁HP:

https://www.digital.go.jp/policies/digital_garden_city_nation/well-being

⑪については、湖南市の重要なまちづくりの取組であるものの、過去のアンケートでは設問がなかったため、今後の取組の発展・深化のための取組を検討する上での基礎資料とするために追加。

※ ④大学生については、こなんSDGsカレッジ参加者を想定／実施の可能性について要検討

	②高校生 アンケート	③中学生 アンケート
対象	石部高校、甲西高校に通う二年生全員 (市外在住含む)	石部中、甲西中、甲西北中、日枝中の二年生・三年生全員
配布数・ 対象者数	対象者数： 約 400 人 学校配布端末によるWEB回答を検討	対象者数 約 1,000 人 学校配布端末によるWEB回答
ボリューム	A4判・6頁程度	A4判・4頁程度
把握する 内容	① 湖南市の魅力 ② *現在の幸福度 ③ 住みやすさ(好感度) ④ 定住意向(+Uターンの意向) ⑥ 将来イメージ ⑦ 行政に対する要望(*デジタルの視点を追加) ⑨ まちづくりに対する意識	① 湖南市の魅力 ② *現在の幸福度 ③ 住みやすさ(好感度) ④ 定住意向(+Uターンの意向) ⑥ 将来イメージ ⑦ 行政に対する要望(*デジタルの視点を追加) ⑨ まちづくりに対する意識
配布・ 回収	配布:高校経由 回収:WEB回答	配布:学校経由 回収:WEB回答 ※授業連携を要依頼
その他	前回調査では「結婚や子どものこと」について設問有 ⇒地方創生推進交付金事業の取り組みに配慮し、「結婚や子どものこと」の設問を見直し、「魅力を感じる仕事」等について設問を追加。 ⇒「SNSの利用」に関する設問を追加。	⇒「SNSの利用」に関する設問を追加。
外国語 対応	—	—
事前周知	—	—